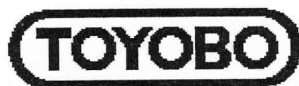


製品名 リックス®フィルム L6102
 作成 1995年5月30日
 改訂 2005年3月24日
 整理番号A2517K



製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	リックス®フィルム L6102
会社名	東洋紡績株式会社
住所	大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
担当部門	フィルム生産・業務部
電話番号	06-6348-4129
FAX番号	06-6348-3774
製品コード	L6102

2. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物	
化学名(一般名)	ポリエチレンコポリマー	ポリエチレン
別名	LLDPE	LDPE
含有量	95%以上	5%以下
化学特性(化学式)	$-(\text{CH}_2\text{CH}_2)_m-(\text{CH}_2\text{CHR})_n-$ R=脂肪族アルキル基	$-(\text{CH}_2\text{CH}_2)_m-$
CAS番号	25213-02-9	9002-88-4
官報公示整理番号	6-1594	6-1
化審法 安衛法	9-335	公表
危険有害成分	1%以上の危険有害成分および0.1%以上の発がん性物質を含まない。	
化学物質管理促進法 指定化学物質(政令番号)	該当しない	
労働安全衛生法 通知対象物(政令番号)	該当しない	
毒物劇物取締法 毒物・劇物(政令番号)	該当しない	

3. 危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響
有害性

通常の状態では人の健康に対する有害な影響は小さい。
 燃焼した場合、一酸化炭素等の有毒ガスを発生する可能性がある。
 通常の状態では危険な反応や火災爆発を起こすことはないが、着火源があれば燃える。(消防法 指定可燃物合成樹脂類)
 分類基準に該当しない。

物理的及び化学的危険性

分類の名称
(分類基準は日本方式)

4. 応急措置

吸入した場合	成分は有害とはなりにくいが、異常のある場合には医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	刺激があれば石鹸で洗う。万が一高温で溶融したポリマーが皮膚に付着した場合は、冷水で十分冷やす。皮膚に付着したポリマーは無理に剥がさない。不快感が残る場合は、医師の診断を受ける。
目に入った場合	直ちに清浄な水で5分以上洗い、不快感が残る場合は医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	できるだけ吐き出させ、異常がある場合は、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤	水、粉末、二酸化炭素、泡消火剤、乾燥砂など
特定の危険有害性	不完全燃焼した場合、一酸化炭素等の有害ガスを発生する。
特定の消火方法	風上から、大量の水または消火剤等により消火する。
消火を行う者の保護	消火作業は風上から行う。 大規模火災の場合は呼吸用保護具を着用する。

製品名 リックス®フィルム L6102
 作成 1995年5月30日
 改訂 2005年3月24日
 整理番号A2517K



製品安全データシート

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

フィルム先端で皮膚等を傷つけたり、転倒したりする恐れがあるので、速やかに回収する。

環境に対する注意事項

環境への影響は小さいが、長期間残留すると考えられるので環境中に廃棄しない。

除去方法

野生生物が摂取する恐れがあるので必ず回収する。
 箒や掃除機等で全量回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

加工中、静電気を発生することがあるので、静電気除去装置を必要な場所に適宜設置する。

溶剤等の引火による火災発生を起こすことがあるので近くでみだりに引火性の溶剤等を使用しない。

引火性の溶剤等を使用するときは特に局所排気、全体換気を確実に行う。静電気による放電が起きないように生じた静電気は静電除去装置等により積極的に取り除く。

注意事項

粉塵発生や溶融を伴う作業をする時は、局所排気・全体排気を行なう。

安全取扱い注意事項

フィルム先端が鋭くなり、皮膚等を傷つける恐れがあるので保護具を着用する。

人が転倒しないように歩行域からフィルムを取り除くよう留意する。

ロール状物は重量物のため、落下しないように注意する。

保管

適切な保管条件

重量物のため荷崩れ、落下を防止する。

強酸化剤、熱源、発火源とは隔離して保管する。

熱・発火源から離れた乾燥した場所で常温保管する。

安全な容器包装材料

紙または段ボール包装

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

粉砕など粉塵が発生する作業を行う場合には、静電気による粉塵爆発の危険性があるので、静電気除去装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具

粉塵が多い場合は防塵マスクの着用が望ましい。

手の保護具

保護手袋を着用する。

目の保護具

保護眼鏡の着用が望ましい。

皮膚及び身体の保護具

フィルム走行、溶融を伴う作業等では保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态、色、臭い

プラスチック無色透明フィルム、無臭

pH

該当しない

融点

100~130℃

引火点

230℃以上

発火点

349℃

爆発特性

粉砕作業などで多量の微粉末が発生した場合、静電気による粉塵爆発の可能性がある。

密度

0.88~0.97g/cm³

溶解性

水 : 不溶

